

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導	
現 状	<p>(1)本校では、生徒の進路意識の向上と学習意欲の喚起を目的に、折に触れて様々な進路行事を開催している。さらに外部講師を招き、1・2・3学年とも進路講演会を行っている。これらによってモチベーションを高める生徒がいる一方で、進路意識が高まらない生徒も散見される。</p> <p>(2)自らの進路について早くから考え、目的意識を持って学校生活を送っている生徒と将来についてなかなか考えを深めることができない生徒がいる。</p>	
達成目標	①進路意識の醸成	②「進路目標(志望校)の設定」
	<p>①各種進路行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事を通して、自らの進路を深く考えるようになった生徒の割合80%以上</li> </ul> <p>②外部講師を招いての進路講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識を持って学習に取り組むようになった生徒の割合80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とすべき志望校が、第2学年が終了するまでには決定している。</li> </ul>
方 策	<p>1 学年集会や面談等を利用し、進路を考える機会とする。</p> <p>2 高い進路目標を持つ集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、お互いに切磋琢磨できる環境を学校生活のさまざまな場面で育成するように努める。</p> <p>4 学習支援講座や講演会、「進路のしおり」等を通して、生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。</p> <p>5 社会人や大学生を招いたキャリア教育により、主体的に「学びに向かう力」を育むことができるように支援する。</p>	
達成度	<p>①について:1学年は社会の現場で活躍する本校の先輩方を招いて開催したキャリアガイダンスや看護体験、富山大学の医学部の説明会。2学年は富山県主催のアカデミックインターンシップ、看護体験、富山大学の医学部の説明会。3学年は富山大学や自治医科大学などの医学部の説明会、節目ごとの進路に関する学年集会。</p> <p>②について:1学年は進路講演会やキャリアガイダンス。2学年、3学年は進路講演会や学習支援講座をおこなった。また3学年には保護者を交えた講演会も開催した。</p> <p>①と②のアンケート結果を見るとどちらも、各学年の満足度は80%を超えている。今年度に限っては、講師の選定や学習会の内容、キャリアガイダンスの内容がうまく生徒のニーズと合致したのかもしれない。ただ、これでいいというマニュアルは存在しないので、その年ごとに生徒の実情を踏まえて、様々な試みを実施していかなければならないと考えている。</p> <p>①1年生82.2% 2年生83.6% 3年生80.4 % ②1年生91.6% 2年生80.9% 3年生95.7 %</p>	<p>令和5年1月末現在、志望校が決定している生徒が27.7%、ほぼ決定している生徒が53.6%であった。</p>
具体的な取組状況	<p>各種進路行事や講演会を行う目的をはっきりさせた。何のためにこの行事を行うのか、どんな目的で、今回の講師を招いたのかを生徒に理解してもらうよう心がけた。実際に大学で研修することで大学生活で必要になる学力、社会で活躍する卒業生の方々に社会人として必要な能力を伝えてもらった。その結果、現在の高校生活において何を、何を学ばなくてはならないかを生徒自身に考えさせる機会としたつもりである。</p>	<p>年間を通して、学年や担任との定期的な面談指導を実施した。特に、難関大学以上を目指す生徒には、入試問題の添削指導や各種学習会を実施した。学習指導のみならず、部活動の部員間での学び合いなど、生徒が自主的に目的意識を持って取り組むことができる環境作りに努めた。</p>
評 価	<b>B</b>	<b>B</b>
	<p>各種行事や進路講演会は概ね評価されていることがわかった。取り組み状況にも記したが、指導部としては、どうしたら生徒が自らの未来を具体的に考えてくれるかを模索しながら実施してきた結果である。次年度にも繋げていくのはもちろんのこと、次は進路行事を通して何に取り組むようになったかまでを調査したいと考えている。</p>	<p>「まなびたきもの集う」のコンセプトのもと、高い学習目標の設定を推奨している。8割以上の生徒がその目標達成に向け努力している。今後は、現在の目標校を「受験校」に、そして、合格できるように自主的で意欲的な学習態度が身につくように支援したい。ただ、2学年は学校になかなかうまく適応できない生徒も散見されるため、面接指導などを通して進学する意味や大学における学びの楽しさを伝えたい。</p>
学校関係者の意見	<p>外部講師(予備校、キャリアガイダンス等)の講演や授業の際に、教員からも積極的に質問してもらいたい。ちょっとした質問をするだけでも、受講している生徒の活動が活発化する。また、「進路目標の設定」については、1年次より進路について考える機会が多くあり、目標設定や意欲につながっている等の意見があった。面接については、先生方の指導や意見もあると思うが、とりあえず生徒の話聞くといった姿勢で臨んで欲しい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>今年度の取り組みは次年度も継続して行いたい。やはり行事を行う目的を、生徒にはしっかりと理解してもらう必要がある。主催する側としては、もっと目的を詳細に伝えるべきだったかもしれない。現在はキャリア教育の重要性が叫ばれているが、外部講師の方々との意思の疎通も重要になってくる。学校側の思いと外部講師の方々との思いをすり合わせることも必要不可欠である。生徒にとって、5年後、10年後の未来を思い描くことができるような行事や講演会にしなければならぬと考えている。</p>	<p>10年前の生徒とは明らかに様相が違う。こう言えばきっとわかってくれるだろうということは少なくなったと感じている。生徒には、どうしてこんな話をするのか、理由は〇〇だからといった丁寧な説明が必要となっている。我々教員の主戦場は授業であるが、その中においても人間関係の構築は不可欠な要素となっている。そのような人間関係を構築した上で、学習指導や進路指導を行うことで、生徒自身が自らの進路を考える機会を創出するよう心がけなければいけないと考えている。また今年度は、外部から講師を招いて進路講演会や学習支援講座を開催し、進路を考える一助とした。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 富山高等学校アクションプラン-4-

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	学校行事への主体的な取り組みと生徒会規約の見直し	
現 状	<p>学校行事は生徒の主体的活動を促し、実生活における思考力、表現力、判断力の礎となる重要なものである。さらに主体的な学びを促進する重要な機会でもある。本校では生徒と教職員が協力して生徒会や実行委員会で諸行事を運営している。</p> <p>ただし生徒たちの主体的な活動とはいえ、実際の活動は基本的に前年度を踏襲する、もしくは前年度のマイナーチェンジというのが現状だった。ところがコロナ禍による行事の中止、縮小が相次ぐ中、生徒たちは想像し工夫しながら行事の開催にたどり着くという、真の意味での主体的な活動になりつつある。</p> <p>だがまたその一方で一部の生徒たちだけで企画運営し、教師や他の生徒に活動の状況が伝わらないという現象も見えてきている。</p> <p>生徒会や実行委員会の活動を「見える化」し生徒全員が企画・運営に参加する学校行事にしていきたい。</p> <p>また、9割以上の生徒が部活動に所属していることから部活動に参加することがより良い学校生活や進路選択につながるよう支</p>	
達成目標	1.本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)に自ら協力できたと感じる生徒が80%以上。 充実していたと感じる生徒が85%以上。	2.生徒会の規約を見直し、全校集会(生徒総会)などが開催できるシステムを構築する。
方 策	<p>1.年間における特活行事の時期・目的・内容等の検討を行う。</p> <p>2.主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。①準備や運営に自ら協力できたか。②この行事は充実していたか。③その他意見</p> <p>3.生徒会の規約を時代に沿った内容に、生徒と教員が話し合いながら改正を進める。</p>	
達成度	<p>コロナ禍で行事の中止・縮小が相次ぐ中、生徒たちは良く工夫し、積極的に取り組んでくれた。</p> <p>アンケート調査の結果は以下の通り。</p> <p>体育大会の内容に満足 72.3%</p> <p>体育大会の運営は 生徒中心に感じた 85.6%</p> <p>生徒と教師が協力していた 12.6%</p> <p>文化活動発表会の内容に満足 75.68%</p> <p>文化活動の運営は 生徒中心に感じた 66.0%</p> <p>生徒と教師が協力していた 32.2%</p>	<p>生徒会規約の見直しを生徒、教員それぞれが案を出し合い達成することができた。生徒会規約にない、校則の運用についても生徒代表と教員代表が話し合う場を設け、生徒の意見が反映されるようになった。</p>
具体的な取組状況	<p>感染症対策を取りながらの企画立案は、白紙からの状態であったため、実行委員会は良く工夫して行ってくれた。</p>	<p>生徒から話し合いの場を持ちたいと申し出るなど、積極的な姿勢が見られた。また、PTAから生徒と直接対面して意見を聞きたいという申し出もあり、今までにない取り組みが多く行われた。</p>
評 価	A	B
	<p>生徒が中心となる行事運営のスタイルは確立してきた。だがやはり一部の生徒で運営され、生徒全員が取り組んでいるというスタイルにはなっていない。</p> <p>3年生が実行委員会を務めるという現在のスタイルに多少手を入れる必要もあるのかと感じている。</p> <p>だが、生徒が生徒を動かすという運営は素晴らしい。</p>	<p>生徒の考えと教員の考えのすりあわせがうまく機能していない。それぞれの考え方をどう合わせていくのか、その方法を考えなくてはいけない。また、その提案に対して広く生徒や教員に意見を聞く方法も考えなくてはいけない。</p>
学校関係者の意見	<p>生徒会と先生方、また生徒会とPTAの話し合いが持てたことは素晴らしいことだと思う。生徒会の「何かを変えたい」といった気持ちを大切にしたい。生徒達はまだ未熟な点も多いと思うが、先生方やPTAの方々との対話を継続して行ってほしい。また、どのような対話があったかを記録に残すことが重要だということを教えてあげてほしい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>生徒中心の行事運営において、教員の関わり方が問題になってきている。「生徒中心」と「生徒の勝手」の違いを明確にしなければならない。例えば今年度の体育大会では、「全員が楽しめる体育大会」をコンセプトに企画したようだが、若干FUN(お楽しみ)より種目設定になり、多くの教員から「これは体育大会ではない、運動会だ。」との指摘がありました。教員がどのように生徒をコントロールするのか、その手腕が問われていると感じている。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)